

2022年5月16日

ロシアからの原油輸入代替としての米国産バイオ燃料輸入検討の提案

日本のロシアからの原油輸入量は全体の3.6%相当で日量9万バレル (=年間5.3百万KL) だが、ロシア産原油の禁輸措置によって、これを代替する為の新たな調達先を早急に物色する必要が出てきた。

日本企業が関わるサハリン1とサハリン2については日本政府は権益を維持する方針を表明しているので、この産出分が占める43%分を継続して調達出来た場合は残りは57%分 約3百万KL/年 となるが、この代替調達先の確保が急務である。

石油製品の精製比率は、ガソリン24.5%、軽油19.2%、C重油16.4%、A重油12.1%、ジェット燃料11.7%、灯油11.7% 等だが、この内バイオエタノールで代替可能なものは約48%、BDFで代替可能なものも約48% であると思われる。

従い、単純計算で、原油換算相当分で、バイオエタノールとBDFを其々144万KL/年ずつ輸入することによってロシアからの原油輸入分を代替することが可能となる。この導入に当たっては、其々の石油製品に少量混合(約3.6%)することが可能だが、石油製品の精製比率を若干調整して、ガソリンへのバイオエタノール、軽油へのBDFの混合比率を上げることも可能である。

尚、このバイオ燃料の導入で石油製品の消費が低減されればCO2削減に繋がる。又、原油価格が高騰する現状においては、従来割高とされていたバイオエタノールやBDFの導入がガソリン等石油製品価格の低減に繋がるというメリットも併せて享受することが可能となり、一石二鳥の効果が期待出来る。

バイオエタノールとBDFの調達に関しては、何れも世界一の生産量を誇る米国からの輸入を志向することが考えられ、昨今の地政学的なリスクを考慮して長期安定的な調達という観点からも望ましいと考えられる。

上記次第にて、緊急避難的な措置としての効果のみならず、ガソリン等石油製品の価格低減、エネルギー安全保障、CO2削減策として、米国から早急にバイオエタノールとBDFを輸入することの検討を行なうことについてご提案申し上げます。

以上